

## 第6学年 国語科学習指導案

児童 6年1組 22名 (男子8名 女子14名)

指導者 高橋 美津子

- 1 単元名 学習したことを生かして  
教材名 「海の命」(光村図書 6年下)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。

本単元は、6年間に身に付けた国語の力を生かして、自分で課題や学習方法を考え、取り組む単元として「生き方」をテーマに三編の作品が設定されている。その中の「海の命」は、文学的な文章のまとめととらえる。本来ならば、卒業を間近にひかえた3学期の教材であるが、「やまなし」「イーハトーヴの夢」の学習方法を生かしてできるだけ自力で作品を読み取り、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめたり自分の生き方を見つめたりすることをねらいとしたい。

本教材は、主人公太一と太一を取り巻く自然と人々のふれ合いを通しながら、少年太一がたくましく成長していく姿が描かれた作品である。太一は小さい頃から父と一緒に漁にでることを夢見ていたが、巨大なクエによって父を奪われる。太一は与吉じいさの弟子となって、やがて村一番の漁師に成長する。ある日、父の命を奪ったクエと出会った太一は、悠然としたクエの態度に心を揺さぶられる。葛藤の末、太一はクエを殺さなかった。本教材は、生きることの意味や自然との共生を考え、自らを見つめるために適した教材である。この物語は、起承転結のはっきりした構成であり、この構成をとらえることによって、作品の山場や主題を読み取ることができる。児童は、主人公太一に自然に感情移入ができ、わくわくするような、また心にしみるような展開に、深い感動をもつことができると考える。

#### (2) 児童について

児童は、物語「カレーライス」で、登場人物に共感したり反発したりしながら叙述に即して読む学習をした。「森へ」では、優れた情景描写や説明を読み、筆者の心の動きに寄り添って未知の自然の物語を味わい、「自然」「命」「生きる」などのテーマを選んで自分の考えをまとめ話し合う学習をした。「やまなし」「イーハトーヴの夢」では、宮沢賢治の作品を通して筆者の考え方や生き方を読み取ってきた。これらの学習を通して、児童は「生き物のつながり」「生きること」「自然との共生」などに関心をもつようになってきた。しかし、叙述に即して読むこと、中心となる語句に気を付けて読むこと、段落相互の関係をとらえたり要点や要旨をまとめたりすることなどの読む力は個人差が大きく十分とはいえない。また、登場人物や筆者の考えに自分なりの考えをもつことについても、経験不足や語彙が少ないことから浅いものとなっている児童が多い。視写や書き込みによって、叙述や言語に着目して読むことを継続しながらも、本時では物語文のまとめとして、児童一人一人が主体的に読み深められるよう支援していきたい。

#### (3) 指導にあたって

本単元では、主人公太一の成長や生き方を叙述に即して読み取り、自分の考えをまとめたり自分を見つめたりすることを主目標にする。そのために、家庭学習では課題を示し、登場人物の行動や気持ちを整理し、自分なりの考えをまとめさせておくようにしたい。学び合いの場では、家庭学習や既習の学習をもとに自分の考えを進んで出させるようにしていきたい。自分の考えと友達のことを比較しながら聞き、多様な考えから読みを深めたい。教師は話し合いのねらいがそれないように方向を示す支援をしていきたい。まとめでは、主題である「一人の人間の成長」「人間と自然の共生」に迫り、自分の生き方について考えをまとめ、発表できるようにしたい。

### 3 指導事項の関連と発展

「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる。」

5年

わらぐつの中の神様

→

大造じいさんとガン

6年

カレーライス

→

森へ

→

やまなし・イーハトーヴの夢

→

海の命

### 4 単元の目標及び評価規準

観 点	目 標	評 価 規 準
国語への 関心・意欲・態度	○登場人物の考え方・生き方や作者の伝えた かったことに興味をもちながら、物語を読 もうとする。	・登場人物の考え方・生き方に興味をもち ながら読んでいる。
書く能力	◎物語の主題と関連させながら、自分の考え や生き方についてまとめることができる。	・物語の主題をとらえ、自分を見つめ、自 分の考えや生き方について書いている。
読む能力	◎表現や叙述と関連付けて、登場人物の心情 や考え方・生き方について読み取ることが できる。	・登場人物の心情を表す表現や叙述に着目 して、登場人物の考え方や生き方を読み 取り、自分の考えをまとめている。
言語についての 知識・理解・技能	○物語の展開において重要な言葉や優れた 表現や書き表し方に着目し、その効果につ いて気付くことができる。	・物語の展開において重要な言葉や優れた 表現に着目し、その効果について考え、 自分の読み取りや考えに生かそうとし ている。

### 5 単元の指導計画と評価規準（全10時間）

過程（時）	学習内容（○）と主な学習活動（・）	評価規準 活用したい既習事項（既）
意識をもつ （1）	○「海の命」を読み、感想を書く。 ・ 題名について話し合う。 ・ 感想を書く。	関 教材の範読を意欲的に聞き、学習に期 待をふくらませている。（聞き方） 書 物語の感動を感想として書いている。 （ノート） （既）設定をとらえる。
見通しを 立てる（1）	○学習計画を立てる。 ・ 感想を発表し合う。 ・ 段落分けをし、大まかな構成をつかむ。 ・ 学習課題を立てる。 ・ 意味調べや新出漢字の練習をする。	関 物語の全体構成をつかみ、自分なりの 課題をもっている。（ワークシート） 言 言葉の意味や新出漢字の読み方、書き 方を理解している。（ノート） （既）物語の構成をとらえる。

深める (7)	○課題に沿って読み深める。 ・海や父に対する太一のアコガレや、父の死を知った太一の気持ちを読み取る。	読 「海に住む」「ぼくは漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。」「海のめぐみ」に着目し、太一のアコガレや父の海に対する考えを読み取っている。(ノート・発表) (既) 決意を表す文末表現
	・与吉じいさに弟子入りした太一の気持ちや与吉じいさの思いを読み取る。	読 「無理やり」「千びきに一びき」に着目し、太一と与吉じいさの気持ちを考えている。(ノート・発表) (既) 主題につながる言葉、キーワード
	・与吉じいさの死に対する太一の気持ちと成長を読み取る。	読 「村一番の漁師」「海に帰った」に着目し、与吉じいさと太一の気持ちを考えている。(ノート・発表) (既) 類比、時間の流れを表す言葉
	・母の気持ちと瀬にもぐるようになった太一の気持ちを読み取る。	読 「母の悲しみさえも背負う」「自由な世界」に着目し、母の気持ちと太一の気持ちを考えている。(ノート・発表) (既) 母と太一の海に対する思いの違い、海の様子についての比喩
	・瀬の主クエの様子を読み取る。	読 クエの描写をおさえ、悠然とした姿をとらえている。(ノート・発表) (既) 対比、色彩語、比喩
	・太一がクエを「海の命」だと思えるに至るまでの、太一の心の移り変わりや成長を読み取る。(本時)	読 「この魚をとらえなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。」の叙述に着目して、太一の心の変化と成長を考えている。(ノート・発表) 言 物語の展開において重要な言葉や優れた表現に着目し、自分の読み取りや考えに生かそうとしている。 (ノート・発表) (既) クエの描写に着目し、それを根拠に自分の考えを発表する。一人前の漁師について対比して考える。
・太一の「その後」を読み、主題について考える。主題と関連させながら、自分の考えや生き方についてまとめる。	読 「村一番の漁師であり続けた」に着目し、太一の生き方について考えている。(ノート・発表) 書 主題と関連させながら、自分を見つめ、自分の考えや生き方について書いている。(ノート) (既) キーワード、主題	
広げる (1)	○他の作品と比べ、単元全体を振り返る。 ・立松和幸の作品「山の命」を紹介し、「海の命」と比べながら作者の考え方について話し合う。	関 作者の考え方に興味をもち、「山の命」を進んで読もうとしている。 (発表・ノート) (既) 対比、類比、キーワード、主題、

## 6 本時の指導

### (1) 目標

太一がクエを「海の命」だと思えるに至るまでの、太一の心の移り変わりや成長を読み取る。

### (2) 研究にかかわって

#### ○既習事項を活用する力

指導過程の「深め広げる」段階では、前時まで読み取ってきたことと家庭学習での読みをもとに授業の学び合いを進めたい。本時では、悠然としたクエの様子に着目したり、太一の気持ちを父や与吉じいさの考え方と対比させたりして読み取らせたい。

#### ○考える力

「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。」を提示し、初めに「太一が泣きそうになったのはなぜか」を考える。この発問で、瀬の主クエの様子をださせたい。次に、「一人前の漁師とは、どんな漁師か」を考える。太一は父を破ったクエを捕れなければ父を越えることはできないという思いと、悠然としたクエの様子に心が揺れ動く。しかし、父や与吉じいさの言う本当の一人前の漁師という意味に思いが至った時、クエに対する気持ちが変わり、もりを打たずに微笑むことができる。家庭学習では、太一の行動と気持ちを表す表現を整理したりクエの様子を表す表現を書き出せたりして、授業に臨ませるようにしたい。学び合いでは、家庭学習をもとにして、積極的な発表と友達同士の意見を聞き合うことによって読み取りを深めていきたい。

まとめの段階で、課題についてまとめを自力で書かせるとともに太一の成長について自分の考えを書かせたい。

### (3) 展開

前時の学習	<p>[学習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>瀬の主クエの様子を読み取る。</li> </ul> <p>[学習活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太一の夢とは何かを考える。</li> <li>色彩語・比喩に着目しクエの様子を読み取る。</li> </ul>	
過程	<p>学習内容(番号)と学習活動(◎) 予想される児童の反応(○)</p>	<p>指導上の留意点(・) 評価規準</p>
意識をもつ5分	<p>1 前時の学習を想起する。 ◎瀬の主クエの悠然とした様子や太一の気持ちを思い出しながら、前時学習場面を想起する。</p> <p>2 学習課題を把握する。 ◎本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>太一は、なぜクエをとらなかつたのか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習提示を見ながら想起させる。P78のクエの挿絵についてもふれる。</li> <li>学習計画に沿って学習課題を確認する。</li> </ul> <p>(掲示物)</p>
見通しを立てる5分	<p>3 学習課題を解決するために、見通しを立てる。 ◎学習場面を音読する。 ◎太一の気持ちの変化が分かる文にサイドラインをひく。 ◎課題解決の手がかりとなる文を視写する。 「この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2名に指名読させる。</li> <li>太一の気持ちの変化したところは「水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくをだした。」であることを確認する。</li> <li>その前の文が課題解決の手がかりになるので、その文を丁寧にノートに書かせる。</li> </ul>

<p>深 め 広 げ る 25 分</p>	<p>4 学習課題を解決するために読み取る。</p> <p>◎太一が泣きそうになったのは、なぜかを考える。</p> <p>○とらえたいけれども、とらえられない苦しさに泣きそうになった。</p> <p>○「もりを突き出しても動こうとない」「全くうごこうとせず太一を見ていた」クエに圧倒された。</p> <p>○「おだやかな目」は太一の憎しみや捕らえようとする気持ちを小さくしてしまった。</p> <p>○「自分に殺されたがっているのだ」から、太一がクエの気持ちを察し、その広い心に感動した。</p> <p>◎一人前の漁師とは、どんな漁師なのか考える。</p> <p>○今の太一は、クエを捕らえて父をこえることだと考えている。</p> <p>○「海のめぐみ」と言った父や、「千びきに一びき」と言って海を大切に与吉じいさのように、海の命を大切にす漁師のこと。</p> <p>○クエを捕らえることは、一人前の漁師になることではない。クエを捕らえないことで、一人前の漁師になれた。</p> <p>◎海の命とは何かを考える。</p> <p>○大魚のこと。父のこと。</p> <p>○海に生きる全ての生き物のこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習で太一の気持ちやクエの様子を整理させておく。</li> <li>・太一が瞬時にクエを打たないと決心した心の変化をとらえることは難しいので、児童の発言を広く認めたい。自分と友達の意見を比較しながら聞いたり発表したりさせる。</li> <li>・太一はすでに「千びきに一びき」の意味を分かっている。しかし、今の太一が思う一人前の漁師に違いがあることに気付かせる。太一の考えと父や与吉じいさの考えを対比させ、クエをとらえないことが一人前の漁師であることを確認する。それに気付いたことを太一の成長ととらえる。</li> <li>・「海の命」については、次時で考えるので簡単に扱う。</li> <li>・児童の発言を整理し、課題解決が見える板書に努める。</li> </ul>
<p>ま と め 確 か め る 10 分</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>◎課題のまとめを自分の考えをまじえて書く。</p> <p>◎発表する。</p> <p>◎まとめの音読をする。</p> <p>◎学習の感想を発表する。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p> <p>◎太一の「その後」を読み取り、主題について話し合う。自分の考えや生き方についてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめについて、書き出しを指定し、自分の考えも入れて5行程度にまとめさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>評価規準</b></p> <p><b>読</b> 太一は、クエの悠然とした姿にクエを捕らないことが海の命を守ることであり、本当の一人前の漁師であることに気が付く。そこに太一の成長を感じている。(ノート・発表)</p> <p><b>十分満足できると判断される状況</b></p> <p>太一の成長だけでなく自分の生き方や考え方にもふれている。</p> <p><b>努力を要する児童への手立て</b></p> <p>板書を振り返り対話をしながら、課題についてまとめさせる。</p> </div>
<p>次 時 の 学 習</p>	<p>[学習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太一の「その後」を読み、主題について考える。</li> </ul> <p>[学習活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「一人前の漁師であり続けた。」の読み取りをする。</li> <li>・ 主題について話し合い、自分の考えや生き方についてまとめる。</li> </ul>	

(4) 板書計画

